

## ご挨拶

# 瓦谷山だより



vol.9

発行日 2008年12月吉日  
 発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸

印 刷 現代社  
 編 集 (宗) 真光寺

問い合わせ先  
 (宗) 真光寺  
 TEL 0438-75-7414



## 七仏通誠偈（しちぶつつつうかいげ）

早いものでまた新たな年を迎えます。旧年の真光寺は伽藍の建築、引越しと激動の一年でした。ようやく落ち着いてきたとはいえ、まだまだやるべきことがたくさんあります。向上心を忘れず、少しづつ努力を重ね、より良い寺院にしていきたいと考えております。皆様のご協力をお願い申しあげます。

かずさ自然学校は今秋千葉県の提唱する里山フォーラムに参加し、湾岸部の企業関係者のご参加を得て、里山の自然に親しむ活動を行いました。里山保全の重要性を共に学び、川原井の自然の希少性をアピールすることができました。この地が貴重な自然であると認識されるにつれて、新たな問題が起きることも予想されます。未来を見据えながらより良い活動を摸索していきたいと考えています。里山再生活動では田んぼの開墾の他に山の保全にも挑戦しています。新田奥の企業が保有していた山林を買収し、保全すると共に、山を利用する自然学校の活動を展開し、山、川、谷、田、畑といった複合的な土地利用を推進し、本来の里山の姿に戻していきたいと考えています。さらには冬季の活動として、浅間山（せんげんやま）の整備にも着手しています。着実に少しづつ保全の範囲を広げていきたいと考えています。

自淨其意（じじょうい）—自らその意（こころ）を淨くせよ  
 是諸仏教（ぜしょぶつきょう）—是がもろもろの仏の教えなり

この偈文は仏教の原点であり、人が満足して生きるために示された仏の教えです。人の命の原点は、「生きるために生まれた」という一言に尽きます。人生は思うに任せらず、山あり谷ありですが、せっかく生まれたからには最後まで、そして少しでも満足して死にたいものと思います。自分にとつて良いことか、他人にとつて良いことか、心は清く保てているのか、さらに自分は本当の満足を得ているのか、忙しさの中でもそう心に問いかけながら、一生懸命生きる新しい年でありたいと念じています。

現代人は忙しさの中で翻弄される傾向にあります。私自身もその一人です。忙しいからこそ原点に立ち返ることが必要なのではないかと考えています。

合掌

住職 岡本和幸

# 行事報告

「檀信徒」

## ◆山門大施食会法要◆

八月九日（土）、山門大施食会法要が行われました。新伽藍に移つてからの初めての大きな法要でした。

## ◆秋季彼岸会法要◆

九月二十一日（日）、秋季彼岸会法要が行われました。法要後はお馴染みの落語です。落語家さんは古今亭ちよりんさん。お題は「まんじゅう恐い」「やかん」の二本。他にも玉すだれを披露いただきました。

## ◆お寺掃除◆

八月三日（日）、お寺掃除が行われました（表場上　根澄山　台地区）炎天下の中、ありがとうございました。

施食法要/  
説教師  
西田正法老師



彼岸法要/  
落語家  
古今亭ちよりんさん



お寺掃除/  
男性陣は草刈り機で草刈り



お寺掃除/  
女性陣は鎌で草取り



八月/  
お盆法要



九月/  
写経



十月/  
七日法要



十一月/  
植樹祭



## 〔縁の会会員〕

### ◆七日法要◆（午前—法要、午後—季節の行事）

◇「お盆法要」 ◇ 八月七日（木）

季節の行事・・・八月は午後にお盆法要を行いました。

◇「彼岸供養・稻刈り」 ◇ 九月七日（日）

季節の行事・・・奥の田んぼでの稻刈りと写経が行われました。稻刈りは体験的に数株刈つていただきました。

◇「収穫祭」 ◇ 十月七日（日）

季節の行事・・・お寺の裏庭にて新米（釜炊き）にサンマと、天ぷらを揚げて収穫祭を行いました。青空の下、お腹いっぱいになりました。

◇「植樹祭」 ◇ 十一月八日（土）

季節の行事・・・会員の皆さままで森を育てる植樹祭が行われました。植樹祭も今回で三回目となり、里山葬墓苑も賑やかになってきています。

## ◆里山葬墓苑（縁の会）◆

### ◇繋ぐ命

それぞれの植物は思い思いの花を咲かせ、見ると者的心を和ませてくれます。同時に植物にとつては、「自らの子孫を残す」という神秘的で過酷な行為の始まりでもあります。

花には雄しへと雌しへがあつて・・・と、小学校の理科の授業で教わつて知つてはいます。しかし、実際に受粉をしているところを目撃した方は少ないかも知れません。自然界において、受粉と言ふ作業を担うのは蜂等の昆虫達です。ですから植物はいかに虫達が集まつて来てくれるかを競い合い、甘い匂いを出したりして誘います。もし、誘いに乗つてくれなければ・・・その植物は種を作り出すことが出来ず滅んでしまうのです。運良く虫達に好かれ、花びらの中に誘うことが出来たら、植物たちはお礼として花粉を分けてあげるのです。

無事受精が出来、雌しへが肥大化し”実”が育つたとしても、今度はその種を運んでくれるヒトを捜さないといけません。なぜ種を運んで貰わないといけないのか？というと、自らの足元で成長されては生きしていく上において競争相手になりますし、既に成長した植物と、日光や土の中の栄養素を奪い合う争いに対し、新参者は不利でしかありません。また、種の繁栄を考えれば、出来るだけ広範囲にばらまくことが望ましいからです。そこで植物は、種を”美味しい果肉”で包み、鳥等の動物に食べて貰うことで移動をしたり、→



■ガマズミの種

赤く熟した果樹は甘酸っぱくとても美味しい。

### ■カンアオイの花（右）

1km移動するのに1万年かかると言われ、最も移動しない植物として知られています。1種での自生範囲が非常に狭いため、地動説（房総半島と三浦半島が1つの半島だった）の証人でもあります。



■イロハモミジの種

羽の付いた種は風に乗って空に飛び立ちます。



「自然の中に無駄なモノなど何もありません。たとえ小さな虫でも何かの役に立つているからこそ、存在し続けられるのです。」

先日出会った自然観察員さんの言葉です。

種自身が動物たちの餌に成ることによつて移動を成し得る者も、また、種に”羽”を付け、風に乗せて空へと舞い上げる者もあります。  
花の色や大きさ、花の咲く時期など、植物によつて様々ですが、種のあり方も実に様々です。自らが動けない分、色々な工夫や協力者を得ながら命を繋いでいきます。

### ◇大切なお願い◇

墓園内で”小火”<sup>ボヤ</sup>が発生しました。通路を一m程度延焼させた程度で済みました。墓の木チップや、枯葉等は大変燃え易いものですので、墓園内での火気の取り扱いを全面禁止とさせて頂きります。

・お線香は觀音堂（位牌堂）にてお願い致します。

・故人へのおタバコのお供えはご遠慮頂くか、フィルター部分（化学物質）を取り除き、火を着けずにお供え下さい。

境内地は全域禁煙となつています。墓参等に来られた際の喫煙は所定の場所でお願い致します。

### ◇境内地及び周辺地域で観察できる野草（春）

スミレ タツナミソウ  
タチツボスマレ  
タンポポ  
チゴユリ  
ツボスミレ  
ノジスミレ  
タチツボスマレ  
ニリンソウ  
ヒナスミレ  
ヒメオドリコソウ  
ヒメハギ  
フデリンドウ  
ホタルカズラ  
ホウチャクソウ  
マキノスミレ  
マルバスミレ  
モウセンゴケ  
ヤマエンゴサク  
ヤマルリソウ

アカネスマレ  
アマドコロ  
イカリソウ  
イチリンソウ  
ウラシマソウ  
エビネ  
オオイヌノフグリ  
カキドウシ  
カタクリ  
キランソウ  
キンラン  
ギンラン  
クマガインソウ  
コケリンドウ  
コスミレ  
コモウセンゴケ  
サギゴケ  
シュンラン  
ショウジョウバカマ  
スハマソウ

※盗掘された野草が商品として売られている場合があります。ご購入の際にはお気を付け下さい。

# 里山再生活動

かずさ自然学校、五年目のお米作りの収穫も無事に終えることでき、今年は約三十四俵のお米が採れました。

七月の草取りでは稻の間を埋めている草を眺め「取つても取つても終わらない！」と嘆く姿もあれば、九月の稻刈りではイノシシに倒された稻に四苦八苦とし（とても刈りづらい！）、十月の収穫祭では「火がつかない！」（火おこし）「木が抜けないっ！」（開墾）などなど・・・汗水を流さずにはいられない場面が多々ありました。が、その分苦労した甲斐があったのか、皆さんとてもすつきりとした表情をしていました。

今年は今までになく多くの方に参加していただき、賑やかで楽しい時間が過ごせました。そして、ハピニングの時に駆けつけてくださったり、花巻寿司や稻藁編みをご教授してくださいました。お檀家さんにも数多くの協力をいたしました。皆さま、ありがとうございました。

## 7月 クサトリ



1. 谷津田トレッキング
2. 草取り中にパチリ
3. 草取り前・後は一目瞭然！
4. 曹洞宗青年会の草取り
5. 百年ほど前の横井戸をのぞき込む

## 9月 イネカリ



1. 鎌でどんどん刈っていきます
2. 難所(稻が倒れていた所)が終わりバンザイ！
3. 刈った稻を結束していきます
4. 竹を組んではざがけしてホッとひと息



1. 古米でポン菓子を作りました
2. 参加回数×2kgのお米を進呈
3. 上のおじさんに稻藁編みを伝授してもらいました
4. 黙々と編んでいます
5. 火おこしに挑戦！
6. みんなが好きな開墾作業

## 10月 シユウカクサイ

# ◇活動予定◇

## 【谷津田のね米作り】

### お知らせ

新

### 【風景を開かもせんか?】

☆じゃれにはカマをトニ☆

山に密生する笹・下草を刈り入れ、光と風の入る山(森林)へと整備していきます。風景を開く楽しさを味わってみませんか?

### 「間伐体験」

日時 一月 十七日 (土)

内容 間伐体験・シイタケのほど木伐採等

### 「笹の刈り開き」

日時 二月二十一日 (土)

内容 笹の刈り開き・椎茸の菌打ち等

【開墾】  
日時 三月十四日 (土) ※日帰り  
内容 笹刈り、笹燃し  
  
【畔塗り】  
日時 四月十八日 (土) / 十九日 (日)  
内容 ※各日とも日帰り  
内容 田の畔塗り

集合場所/時間 真光寺/10時

\*電車での参加の方には送迎を致します。

(要申込み・内房線姉ヶ崎駅改札口

午前九時三〇分集合)

【お米作り年間スケジュール】  
(予定)  
「開墾」※日帰り  
三月十四日 (土)  
  
「畔塗り」※日帰り  
四月十八日 (土) / 十九日 (日)

【田植え】※日帰り  
五月二十三日 (土) / 二十四日 (日)

【サマーキャンプ】  
五月二十七日 (土) - 二十八日 (日)

【草取り・ホタル狩り】※宿泊  
六月二十七日 (土) - 二十八日 (日)

【サマーキャンプ】  
七月十八日 (土) - 十九日 (日)

【草取り・ホタル狩り】※宿泊  
八月二十一日 (土) - 二十二日 (日)

申込み方法 satoyama@shinko-ji.jp 又は  
FAX 0438-75-7630 までお申込み  
トモ  
（要申込み・内房線姉ヶ崎駅改札口）  
午前九時三〇分集合)

服装 動きやすく、汚れても良い服装

申込み方法 satoyama@shinko-ji.jp 又は  
FAX 0438-75-7630 までお申込み  
トモ  
（要申込み・内房線姉ヶ崎駅改札口）  
午前九時三〇分集合)



三月から十月までの里山再生活動(谷津田のお米作り)の参加形態が今年から変わります。昨年までは各回とも一泊二日の宿泊型でしたが、今年から宿泊はサマーキャンプとして六月・七月のみとさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。(宿泊希望の方はご相談下さい)

# 道元禅師「学道用心集」に学ぶ

真光寺住職

岡本 和幸

からお布施を返せというのは聞いたことがあります。せんし、懲りずに初詣に行つたりもします。これが「日本教」の特徴です。

誰しも長く生きていれば、さまざまなことがあります。そして人生はなかなかうまくいかないものです。私たちは、自分の将来がどうなるのかわかりません。将来どころか一秒先の出来事さえ予測不可能です。まさに一寸先は闇の状態です。悪いことが次から次へと続き、いいことが少しもないようと思われるとき、心をかかめるのが、「何かあるのかもしれない。お祓いでもしてみようか」という気持ちです。

ブラックボックス型の宗教

人間のさまざまな不安や悩みを解消し、あるいはやわらげてくれる働きを持つ宗教を、「ブラックボックス型宗教」つまり、不安や悩みをとりあげずブラックボックスに放り込んでしまうわけです。すると御利益や安心が出てくるという仕組みです。つまりブラックボックスは不安の調整機のような役目をするというものです。

面白いことに、日本人は箱の中身が何であるか、あまり気にはしません。ブラックボックスの中身が特定のものであると、なぜご利益がないのかと考えて悩んだりするからです。こんなに信仰をしているのに、どうしていいことがないのだろうという感覚は、日本人にはあまりないようです。また願い事がかなわなくとも、ブラックボックスの責任は問われません。合格祈願がかなわなかつた

ます。物事には必ず原因があり、縁によって条件が整つて、結果が生まれるという思想を根幹とするので、ブラックボックスが存在しない宗教です。ただし観音菩薩、阿弥陀仏など想像上の仏、菩薩、地域に根ざした仏の化身である権現、眷属などがブラックボックスの役割を果たしています。逆に、キリスト教やイスラム教など、絶対神の存在するブラックボックス型の宗教では、預言者や使徒などの言葉が論理的な宗教観を開いています。

さて道元禅師が再三再四いわれる「無常を観ずる」というのは、つまるところ、不安や悩みをブラックボックスの中に安易に投げ込まないで、よく觀察せよということではないかと思うのです。

「無常を観ずる」という言葉は、命のはかなさや物事の移り変わりを觀察することとのみならえられてしまいがちです。確かにそれは仏道を学ぶために重要なことです。私たちは「ああ、こんなにシワが増えてしまった」とか、「あの人はあんなに元気だったのに、ぼっくり逝ってしまった」と

**文字を先とせず、解会を先とせず、格外の力量あり、過節の志氣ありて、我見に拘わらず、情識に滞らず、行解相応するこれ乃ち正師なり。**

(学道用心集五)

（学道用心集五）  
行道は導師の正と邪とに依るべきか。

（学道用心集五）  
道元禅師は、仏道を学ぶ者には、必ず信心が必要であると説かれています。信心というのほどちらかというと浄土教などで言われる言葉で、自力の修行を説く禅宗の思想とは相容れないのではないかと思われるかもしれません。また、信心といふ言葉には無条件で神や教祖を信ずるようなイメージがあるので恐怖や嫌悪を感じがちですが、もちろん道元禅師の言われる信心は、そのようなものではありません。道元禅師は『学道用心集』の中で、

すなわち「信心」ではないでしょうか。  
道元禅師は、仏道を学ぶ者には、必ず信心が必要であると説かれています。信心というのほどちらかというと浄土教などで言われる言葉で、自力の修行を説く禅宗の思想とは相容れないのではないかと思われるかもしれません。また、信心といふ言葉には無条件で神や教祖を信ずるようなイメージがあるので恐怖や嫌悪を感じがちですが、もちろん道元禅師の言われる信心は、そのようなものではありません。道元禅師は『学道用心集』の中で、

## 信心とは

それでは、道元禅師はいったい何を信じろといわれるのでしょうか。

**仏道を信じる者は、須く自己本道中に在つて、迷惑せず妄想せず、顛倒せず、増減なく、誤謬なきことを信ずべし。**（学道用心集九）

仏道を信ずるものは、自己は必ず本来仏道の中に生かされていることを信じ、迷つたり、惑乱したりしない。汚れた考えをもつて妄想したり逆の考えに陥ることもない。無我の世界は増す、減るといった裁量の世界ではなく、煩惱の誤りがおきないことを信じなさい、といわれます。

つまり真理のすばらしい働きの中にある私の中には迷いや動転があり、妄想に陥り誤った考えをすることがあるけれども、まことの真理の中にはそれがない。もちろん、損得、大小など私の心に染みついた比較の世界もない。煩惱に汚されてもいない。そのことを信じなさいといわれるのです。

仏教において最も必要なものは信心です。何かを学ぼうと法話を聞くのでは、所詮自分なりの解釈をつけて完結してしまいます。御利益を求めたら、その結果が出た時点で解決してしまいます。それではその御利益は、人生にとつてどのような価値があるのでしょうか。たとえば神仏に祈つて奇跡的に九死に一生を得ても、半年後に事故で死んでしまうこともあります。たとえば超能力を得ることができても、それが人生にとつてどんな価値があるのでしょうか。際限のない欲望を満足させることはできないのです。

信ぜば自然に大道の通塞を了じ、迷悟の職由を知らん。人試みに意根を坐断せよ、十が八九は忽然として見道することを得ん。（学道用心集九）

信すればおのずと無心無我の道が通じるか、閉塞感がなくなり、迷いと悟りの由来がよく分かる。意識根源を絶つてみなさい、ほとんど本来の自分の姿が解るとお示しです。

「意根」（意識）はこれまで述べたように、自己の物差しでとらえ理解する根幹です。すなわち無意識にブラックボックスに投げ込んで納得する働きです。これを断つ力が信心です。迷いや恐れをブラックボックスに投げ込まず、また自分の物差しで測らず、真理の眼で本当の姿を見つめれば、私たちが本来いかに幸せな世界にいるのかが見えます。そういう世界にあって、自らの行いが真理に突き動かされたとき、仏そのままの行いをして、仏道を歩むことができる。すなわち幸せな時を過ごすことになるのです。

## 直下承当

道元禅師の『学道用心集』最後のお示しは、「直下承当の事」という一節です。

いわゆる従來の身心を廻転せず、但だ他の証に随つて去るを、直下と名づくるなり。承當と名づくるなり。ただ他に隨い去る所以に旧見にあらず。ただ承當し去る、所以に新見にあらざるなり。

（学道用心集十）



道元禅師はこの『学道用心集』で何を説かれているのかというと、まず無常を観じ、今という時の大切さを知り、迷いの中に行いを立てようと決意することが大切であるとお示しです。そして、常に仏の真理の世界と、自分の今ある欲望の世界とを比べてみる。その上で信心を起こし、自分の物差しではかるなどをやめて、真理の眼で物事を観るとき、おのずと仏の言葉、仏の作用が私を突き動かして、その身その心が真実の仏としての行いをなしていくのである。道元禅師はこのように説かれています。

# 行事予定

## 【縁の会会員】

### ◇七日法要 季節の行事予定

「修正会大般若祈祷法要・年頭法要」 平成二十一年一月七日（水）

【午前】授戒式・一月月供養 【午後】大般若祈祷法要

年頭にあたり多幸を祈願致します

### ◇修正会法要

平成二十一年一月三日（土）午後二時より

年頭のご挨拶と一年間の多幸を祈る法要を致します。法要終了後はけんちん汁をいただきながら、懇親を深めたいと思います。時勢により酒類はお出しできませんのでご了承ください。

### ◇春季彼岸会法要

平成二十一年三月二十二日（日）午後二時より

彼岸にあたり、各家の先祖様の供養を致します。卒塔婆による供養を）希望の場合は、お施主様のお名前と、「先祖代々」または

「お戒名」でのご供養かをお知らせいただき、お電話等でお申し込み下さい。

また法要終了後は落語会を行います。お車でお越しの場合は、山の上と下に駐車場がございますのでご使用下さい。尚、徒歩もしくは下の駐車場をご使用の際は車で送迎いたします。

（どなたでも飛び込みで参加できます）

### ◇婦人会ご詠歌練習日

一月一三日（火）・二一〇日（火） 二月十日（火）・二一四日（火）  
三月十日（火）・二十四日（火） 四月十四日（火）・二十八日（火）

※各回、午後七時半より真光寺書院にて行います。  
(どなたでも飛び込みで参加できます)

■安全祈願（どなたでもお申し込みできます）  
平成二十一年一月三日（土）午前九時から十二時まで 十五分毎  
【車のお祓い】 「交通安全祈願」 「家内安全多幸祈願」  
榜布施三千円程度



## お寺ブログ

【瓦谷山だより】

<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

次号の寺報は3月  
の発行になります

## 各種お申込み連絡先

TEL 0438-75-7414 (代表)  
TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局)  
FAX 0438-75-7630  
e-mail ennokai@shinko-ji.jp

## 【檀信徒】

### ◇修正会法要

平成二十一年一月三日（土）午後二時より

年頭のご挨拶と一年間の多幸を祈る法要を致します。法要終了後はけんちん汁をいただきながら、懇親を深めたいと思います。時勢により酒類はお出しできませんのでご了承ください。

### ◇春季彼岸会法要

平成二十一年三月二十二日（日）午後二時より

彼岸にあたり、各家の先祖様の供養を致します。卒塔婆による供養を）希望の場合は、お施主様のお名前と、「先祖代々」または

「お戒名」でのご供養かをお知らせいただき、お電話等でお申し込み下さい。

また法要終了後は落語会を行います。お車でお越しの場合は、山の上と下に駐車場がございますのでご使用下さい。尚、徒歩もしくは下の駐車場をご使用の際は車で送迎いたします。

（どなたでも飛び込みで参加できます）

### ◇婦人会ご詠歌練習日

一月一三日（火）・二一〇日（火） 二月十日（火）・二一四日（火）  
三月十日（火）・二十四日（火） 四月十四日（火）・二十八日（火）

※各回、午後七時半より真光寺書院にて行います。  
(どなたでも飛び込みで参加できます)

■安全祈願（どなたでもお申し込みできます）  
平成二十一年一月三日（土）午前九時から十二時まで 十五分毎  
【車のお祓い】 「交通安全祈願」 「家内安全多幸祈願」  
榜布施三千円程度

本年よりお正月の車の安全祈願と、家族の安全祈願を受け付けますので、ご希望の方はご家族でご参詣ください。申し込みはあらかじめお電話等でお申し込み下さい。